

2024年度 授業改善推進プラン(全体計画)

学校経営方針(学力向上に関わる要点)
<ul style="list-style-type: none"> ・主体的・対話的で深い学びの実現に向けて、授業改善、指導力の向上を図る。 ・基礎的・基本的な知識や技能を確実に習得させ、確かな学力の定着へとつなげる。 ・学校全体で言語環境を整え、様々な教育活動において言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を伸ばす。 ・主体的に学習に取り組む態度も含めた学びに向かう力や、自己の感情や行動を統制する能力、思考のプロセス等を客観的に捉える力を育成する。 ・児童が「わかる」「発見する」「できるようになる」「感動する」「ふれあう」喜びを味わい、成就感や達成感を実感できる授業をめざす。

授業改善の重点
<ul style="list-style-type: none"> ・体験的な活動や地域人材を効果的に取り入れ、学ぶ意欲や学習への関心を高める。 ・習熟の程度に応じた少人数指導をはじめ、指導形態や発展・補充的学習、教材等の工夫を行い、一時間の授業の質的向上を図る。 ・Chromebookを主体的・対話的で深い学びのために効果的に使う方法について研究を深める。また、基礎・基本的な学力を身につけさせるためにドリルソフト(navima)の効果的な使用方法について情報を共有する。 ・児童が主体的・対話的に学習を行えるようにするための場や時間を意図的・計画的に設定する。 ・学校公開授業等、学習活動を公開し、家庭・地域との連携を強化していく。 ・学校図書館やICT機器を授業内容と関連付け効果的に活用し、児童の学ぶ意欲を向上させる。 ・「かないの100冊」を活用した読書活動の推進により児童の表現力を高め創造力及び感性を豊かにする。

各教科の指導の重点	国語科	音楽科	総合的な学習の時間の指導の重点	特別の教科 道徳の指導の重点
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本の習得。 ・自分の考えをもち、表現する(書く・話す)ことを通して他と交流し自分と違う考えや意見を知り(読む、聞く)、考えを広げたり深めたりできるようにする。 ・qubinaを活用し、既習事項や基礎・基本の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎基本となる事項の習得 ・音楽的な見方・考え方を元に、表したい音楽表現をするための技能を身につけるようにする。 ・対話的な学習を通して、表現を工夫したり、音楽を味わって聴いたりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら課題を見付け、課題の解決に向けて主体的・創造的に取り組む態度や自己の生き方を考える力を育てる。情報機器の活用についても指導する。 ・自分にとって必要な情報を取捨選択しながら、自分なりの表現方法でまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳授業地区公開講座を通して、保護者・地域との連携と児童の健全育成に取り組む。 ○展開後段の自己の振り返りをしていく。ワークシート等を活用し心情の変化を読み取り、評価へとつなげていく。 ○発達段階に応じた指導を取り入れ、動作化や役割演技など体験的学習を取り入れ、児童の多様な意見を引き出す。
	社会科	図工科	<ul style="list-style-type: none"> ○年間を通してたてわり班活動を行い、1年生から6年生までの縦のつながりを深めるとともに、児童会活動・学級活動を活性化させ、よりよい集団・学校生活を送ろうとする心を育てる。 ○なかよしタイムを年間8回、なかよし給食を2学期と3学期に行いつながりを深める。 ○町田っ子カリキュラムを活用して、規範意識を高め、また、食事の大切さやルール・マナーなどを学ばせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○町田市小学校英語教育カリキュラムの指導を行い、ALTや友達とのコミュニケーションを英語で楽しめるよう、ゲームやチャンスをより一層工夫し、コミュニケーションの基礎を身に付けさせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレットやプロジェクターなどのICT機器を利用して、社会的事象への興味・関心をもてるための工夫をしていく。 ・資料を活用し、必要な情報をもとに自分の考えをもてるようにする。 ・自分で課題をもち、ノートや新聞にまとめる力をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な知識・技能の習得 ・造形的な見方・考え方を元に、表したいことを発想したり表し方を考えたりする思考力・判断力を培う。 ・自分の考えを表現するための幅広い表現力を培う。 ・多様な発想や表現を認め、よさや価値を感じられる姿勢を育む。 		
	算数科	家庭科		
	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎・基本となる学習内容の習得。主に ・十進位取りのシステムと10の合成分解 ・和・差・積・商の計算(筆算) ・コンパス・三角定規・分度器の使い方 ・数直線や表を使った立式や説明の技能 ・小数や分数の意味とその計算について、各学年でしっかり習得する。 ○図や表や式や言葉で自分の考えを表現する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎・基本的な知識・技術の習得 ・グループやペアでの協働学習による学び合い ・家庭での実践の紹介による意欲づけ 		
	理科	体育科		
	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本的な知識の習得 ・実験や観察後、話し合いの活動を通して、学習を深める。 ・主体的な活動を行うことができるような課題を設定し、日常生活や経験から見通しを持って実験や観察を行うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・系統性を踏まえた、段階的指導をおこない3観点をバランスよく育む ・教師の言葉かけや場の工夫によって、児童の技能向上を行う。特に、評価がCの児童をB評価にするための手立てを行う。 ・投力向上に向け、遊びや用具を整備する。 ・協働的探究学習で、学びあいの中からコツを共有させるなど、思考力・判断力・表現力の向上に努める。 		
	生活科	外国語科(5・6年生)		
	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な環境や自分自身に関心をもち、すすんでそれとかわることができるようにする。 ・具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして表現できるようにする。 ・具体的な活動や体験によって、自分と身近な人、社会、自然とのかわり及び自分自身の良さに気付けるようにする。 ・地域人材を有効に活用できるようにしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任とALT、MEPSの指導員と連携を図りながら、国際社会で通用するコミュニケーション能力の基礎を身に付けさせる。 ・教科書や副読本のICT教材を活用しながら、正しい発音や英語の表記に触れさせる。 		

ICT機器の活用	発問の工夫	認め合い学び合う集団形成
<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において自分の考えを発表したり、友達の考えを共有したりする場において、G suite for educationを使用する。特にスライドやスプレッドシートの共同編集やコメント機能を活用していくことで、考え方を可視化し、児童が主体的に学び合うことができるようにする。 ・パソコンにおけるローマ字入力を身につけるために学年に応じて体系的に練習を行っていく。 ・「プログラミング的思考」を身につけるために、プログラミングソフト等を活用して体験的に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の興味・関心や生活に根ざした課題を設定することにより、より主体的、意欲的に取り組めるように工夫する。 ・掲示物や具体物、ICT機器も活用し「しかけ」による授業を展開する。 ・個に応じた問いかけの工夫をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容を共有化し、多様な考えを知り、それらに関連付けたり、意見を交流しあいながら、考えを上げていく。その際、比較する、分類する、結びつける、きまりを見つけるなど、考えるコツをしぼっていく。 ・自分の考えと、友達の考えの同じところや違うところを見つけられるように、ペアや少人数での話し合いを行ったり、ICTによる個々の考え方を可視化して比べたりできるようにする。